

フットサルにおける女子選手の参加促進に関する研究

小林 真亜沙 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：フットサル、女子

1. 緒言

フットサルは、世界のスポーツであり、いつでも、どこでも、誰でも楽しむことができるレクリエーションスポーツ・生涯スポーツとして近年人気を集めている。そして、フットサルは世界に広く普及し多くの愛好者によってプレーされている。

そこで本研究は、近年フットサルにおいて女子選手の参加促進の理由について理解し、また女子選手がフットサルを好んで行う目的は何か把握し、調査で得られた視点を今後フットサルが普及・発展していくために、どのようなことが必要なか検討することを目的としている。

2. 研究の方法

(1) 調査対象：琵琶湖レディースリーグに出場していた男女と京都府・大阪府・岡山県のフットサルチーム、男女合計 102 名を対象とした。

(2) 調査期間：2012 年 8 月～10 月

(3) 調査方法：筆者が思案したアンケートを郵送調査法と集合調査法を用いて行った。

フットサルの 1 ヶ月の練習頻度と試合頻度を考慮し、フットサルを始めて 3 年が 1 つの区切りではないかと考えた。そして男性を除き、女性のみフットサル経験が 3 年未満とフットサル経験が 3 年以上の 2 つのグループでクロス集計を行った。

3. 結果および考察

フットサルの経験が 3 年未満の特徴は、「フットサルの魅力」や「フットサルをすることによって得られるもの」において、「仲間との交流が深まる」(68%) や、「交友関係」(73.9%) といった人と関わることが約 70% と割合が多かった。「気軽に交代ができる」(28%) や「人数が少ないため誰もがボールに触れることができる」(24%) などフットサル独自の良さは

約 25% とあまり多くの割合が見られなかった。

フットサルの経験が 3 年以上の特徴は、「フットサルの魅力」や「フットサルをすることによって得られるもの」において、どの項目においても割合が多いことから、多様なフットサルの魅力やフットサルをすることによって得られるものに気づけていることが分かった。フットサルは長い期間継続するほど、フットサルの良さが分かるのではないかと考える。

フットサル経験が 3 年未満と 3 年以上の共通して言えることは「仲間との交流が深まる」や「男女年齢関係なく楽しむことができる」など、人と関わることに好意を持っている人が多いということである。その理由としては、ただ体を動かすことだけを目的としているのではなく、楽しく仲間と触れ合うことや、コミュニケーションをとることを大切にしているからではないかと考える。

4. まとめ

いつでもどこでも楽しむことができるフットサルは、男女関係なく幅広い年齢でプレーされている。手軽に取り組めるスポーツであることから、生涯スポーツ、コミュニティスポーツ、ファミリースポーツとしてさらに楽しまれていくと考えられる。今後フットサルの競技人口を増加させるためには、フットサルが独自の文化を持ち、単独の競技として確立していくためにも、指導者養成、地域リーグの充実、全国リーグ構想、代表強化などを進めていく必要がある。要するに普及と強化の両輪があってこそスポーツとして発展していくと考える。

【引用参考文献】

須田芳正・大獄真人・依田珠江・石手靖・田中博史 (2004) 『日本におけるフットサル普及に関する研究』